



月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

2022

10

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 9月月例会	19
川柳吟行会「ぼ」	24
十和田たてがみ川柳会 8月句会報	28
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	18
Infomation	31～

# カンテラ

むさし

平成4年9月3日(土)午後1時、青森市アウガ5階小会議室。

今日は何人集まるのだろうかと思つて句会に出掛けた。

「青森市の新型コロナウイルス感染者が増えているから、選者の数に出席者が満たないかもしれない」と、ある会員が言っていたのを思い出した。

結果、集まったのは7人。

ホツとしました。

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

## A群

みよがの花が開いたスタートだ

ひらく

お互いのねじれた部分には触れず

斎藤泰子

満月を落さないように抱いている

村上てる

足首から下フェイクです悪しからず

村井規子

ままごとのように仏膳つくってる

渡邊こあき

鏡見るアップデートはもうしない

辻井洋子

以下同文 バツサリ俺が消されてる

石橋芳山

くず入れを覗くとあの日のプロポーズ

まぎこ

体臭を抱えて入る人混みに

米山明日歌

巣ごもりの鳥の呪文は徹だらけ

吉田州花

月に暈 充電期間に入ります

熊谷冬鼓

エメラルドの複眼で見つめないで

田中 薫

仲の良い双子と似ていない双子

須藤しのすけ

海を見るひとの背後で海も見ると

達毘古

達毘古さん、「海も」だから、元々は「海を見るひと」を見ていたんですね?ところが、背中を見ている内にそのひとの「海」が気になり、結局「背中」と「海」の両方を見たことですね?どんな海だったの?ずっと見続けていると、そのひとの背中が海になりますよ!

## B群

百面相したら写楽の絵になった

瀧尻善英

間違つて捨てちゃったかもしれぬ 夏

守田啓子

青空を剥がしてみればさびしがり

ひとり静

逢えぬままゆっくり発酵する秘密

柳本恵子

あいまいが瘡蓋だらけになつてる

芝岡かんえもん

決着は水鉄砲で決めなさい

宮井いずみ

打ち上げ花火誰かの泣いている間へ

吉見恵子

月のページでばたと今日の闇閉じる

きさらぎ彼吾

霧時雨サ行変格活用だ

葉 閑女

葉閑女さん、日本語の文法に詳しくそうですね。私はからつきダメです。「サ行変格活用」って、学校で習ったはずですが思い出せません。広辞苑を引いたら『動詞の活用の一つ。文語「せ・し・す・する・すれ・せよ」、口語「し(せ・さ)・し・する・する・すれ・しろ(せよ)」と活用するもの。名詞・副詞(擬音語・擬態語)を語幹として作る動詞の大部分はこの活用となる。「罪す・罪する」「撃滅す・撃滅する」「うろろうする」「キャンブする」の類。略称、サ変。』とありました。実を言うと、「霧時雨」も知らなかった。広辞苑によると「きり・しぐれ【霧時雨】霧が深くかかったさまをしぐれに見立てていう語。野ざらし紀行「富士を見ぬ日ぞおもしろき」です。し・し・する・する・すれ、うーむ(汗)

## C群

塩レモンキャラメルなアウトサイダー

岩根彰子

速達で届ける赤い曲がり角  
三浦蒼鬼  
なあ君も洗濯バサミの身になれよ  
奈良一艘  
ロシア風おこそ頭巾の装甲車  
小野五郎

岩根彰子さん、「……な○○」っていろんな使い方ができそうですね。例えば「岩根彰子な塩レモンキャラメル」とか。知らなかったけど、「塩レモンキャラメル」って熱中症対策商品なんだね。「アウトサイダー」は、「社会の既成の枠組からはずれて独自の思想をもって行動する人」（広辞苑）世の中、いろんなひとがいるよね。

三浦蒼鬼さん、最近の郵便事情はホントに良くないですね。隣の町へ出した郵便物が4日後に届いたなんて話を何度も聞きました。でも、それは普通郵便のことで、速達は料金が高いかからかすぐ届きます。そんなことを考えて「赤い曲がり角」を「速達」で送ったんでしょよね。ところで、「赤い曲がり角」って郵送出来るの？（笑）「赤い」「曲がり角」って危険な「曲がり角」なんでしょ？  
奈良一艘さん、これ、誰かに言ったの？「洗濯バサミ」って長い時間洗濯物を挟んでいなきゃいけないから大変で

しょうね。あ、そうか。何かが落ちないようにずっと押んでいる、つまり、誰かがダメになってしまわないように支えているひとがいるってことか。弱者は支援が必要だからね。変な句だと思っただけど、変じゃないんだ…。

小野五郎さん、私は「おこそ頭巾」という言葉を何十年も聞いたことがあります。時代劇をずっと見ていないからな…（汗）「おこそ頭巾」は「御高祖頭巾」で、あるホームページに「江戸時代から明治時代にかけて流行した女性が顔を隠すためや、塵よけ、防寒に用いた頭巾のことです。高祖日蓮の像の頭巾に似ていることからこう呼ばれています。四角い布に耳かけのひも輪を付けたもので、ふじ色や鉄色の浜縮緬で作り、一端に雪月花の模様や家紋が染められています。」とあります。「装甲車」が顔をかくすために「おこそ頭巾」をしているというだけでも摩訶不思議なのに、それが「ロシア風」とはなあ…。どこかに「Z」と書かれているんじゃない？ところで、この「装甲車」どこにあるんだろう。もしかしたら、五郎さんの頭の中を何十台も走ってる？

おかしやうき川柳社会員雑詠集

# 無人駅

★無人駅9月月間賞

知り合いの知り合いという落とし穴

熊谷冬鼓

### 米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

体臭を抱えて入る人混みに  
海にいく話ばかりを聞かされる  
三つまで愛の形が描けます  
フクロウの知る闇よりも暗い闇  
空になるまでにする事 あと二つ

先月号のお気に入り  
問題は忘れちゃった悲しみに  
忘れちゃった悲しみの中に、何かがあったのですね。切  
ない気持ち、わかります。  
奈良一艘

### 渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

お盆には声張り上げて般若心経  
亡き母にならつて飾る盆灯ろう  
栗ドラはお向かいさんのお盆菓子  
盆の入り届いた有珠のメロンです  
ままごつのように仏膳つくつてる

先月号のお気に入り  
大皿へ野菜畑を広げてる  
庭の片隅にキュウリとミニトマトと豆を植えました。畑  
とはとても言えません。  
辻井洋子

### 岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

雲間から順ぐりアンパン鼓笛隊  
セルフレジ愛想笑いなどするな  
合鍵を渡してくれた彼岸花  
塩レモンキャラメルなアウトサイダー  
足軽の足踏だったルベルタンゴ

先月号のお気に入り  
あんぱんのあんの片寄る日曜日  
意外性。  
米山明日歌

### 上村夢香【うえむらゆめか・山口県岩国市】

寒蟬にただ背を押され流す汗  
今日も雨パソコンスマホ追うばかり  
無縁墓ようやく掃除ごめんねと  
わたしには取材まだです一軒家  
イノシンも狸もいます庭にまで

先月号のお気に入り  
ボタン掛け違えたまま地球まわる  
二周目もまた、そのままでー  
柳本恵子

### 安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

空を見て足元を見てハイと言う  
洗い過ぎて指の人格わからない  
蛙の腹に小さくxがある挿絵  
ざわわあわわたてがみのコンテスト  
老若を問わず金魚姫のとりこ

先月号のお気に入り  
料理本よりも濃いめで褒められた  
相当に濃い、どんな料理か気になる。  
村井規子

### 石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

なにもかもドングリか栗バカでいい  
星の数かぞえて悪事巡らせる  
以下同文 バツサリ俺が消されてる  
織鶴が飛び立つ八月は過ぎた  
行列の一部始終が乱である

先月号のお気に入り

### 小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

天高く戦闘モードの芝刈機  
葉の上の法界定印アオガエル  
赤と黒のあわいに沈む飯茶碗  
ロシア風おこそ頭巾の装甲車  
歯並びのあまり良くないメロドラマ

先月号のお気に入り

### きさらぎ彼句吾【きさらぎあきあ・青森県弘前市】

片乳房ふわり片翼のでふてふ  
失語症のまんまぼかんと浮くトマト  
トッカータ ペディキュア塗ってピアスして  
後ろ指の中しやらしやらと駒下駄で  
月のページでばたんと今日の闇閉じる

先月号のお気に入り  
だからどうしたペンペン草の骨密度  
前期だ後期だなんて余計なお世話よね  
坂本清乃

### 斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

お互いのねじれた部分には触れず  
ネジバナのようにいろんな角度から  
見ないようにしてゐるくらがりそこにある  
役に立つ正論だとは思えない  
生ぬるくなつてきたからサヨウナラ

先月号のお気に入り  
前髪にふれて祭が去つてゆく  
人生の祭あとを味わっています。  
守田啓子

### 坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

長雨の肩甲骨が軋み出す  
ドシャブリに首を折られた赤芙蓉  
ウイルキンソン裏切り許さぬ桃ざりー  
御馳走が届いて暇の俎板だ  
内水氾濫茨線張つて遣り過ごす

先月号のお気に入り

### 笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

軒下はコロナの通るけもの道  
二酸化ウラン還元されてしよぼくれて秋  
米粒が沃素を墮ろす二週間  
燃料棒破れず洩れぬコンドーム  
愁風驟雨悶えつづける活断層

先月号のお気に入り

### 芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

あいまいが瘡蓋だらけになつてる  
大人になるといつも降つてる火山灰  
えつあれつ俺はライオンだったのか  
もてあそぶ懐にいる蘭奢待  
旧式のガタンゴトンと動きだす

先月号のお気に入り  
あなたにはあなたの仮面貫けば  
まみどりはいーそう致します！これですっきりしましたよ。

### 城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

コロナじゃなかった熱中症だった  
あつけらかんとデイサービスを休む母  
家の無い友の話が終わらない  
このままでいいのかふつと振り返る  
絶好調の翌日にくる絶不調

先月号のお気に入り  
空つなくひまわり千個植えました  
我が家の庭にはコスモスの茎が伸び放題です。  
守田啓子

### 須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

敏感な先つぼ上の句のつぼみ  
明日の朝妻の娘が会いに来る  
かごめかごめを踊る派手なドレスで  
仲の良い双子と似ていない双子  
靴べらの右と左を間違える

先月号のお気に入り  
雨上がる千本鳥居の朱をくぐる  
「朱をくぐる」って…何故か涙が流れて来ました。大切なモノを思い出した気がします。  
渡邊こあき

### 瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

転がしていた筈だった転がされ  
老眼鏡拭いて何でも見たくなる  
過ぎたこと水に流してポジティブ派  
デパートの屋上ぼくらのパラダイス  
百面相したら写楽の絵になった

先月号のお気に入り  
3はいや4が好きだと言つ娘  
3は「三〇〇」など親しみが有り、4は死を連想し忌み嫌われるのですが、若者にとっては「四つ葉のクローバー」の幸運数として捉えてみたいですね。  
葉閑女

### 瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

転がしていた筈だった転がされ  
老眼鏡拭いて何でも見たくなる  
過ぎたこと水に流してポジティブ派  
デパートの屋上ぼくらのパラダイス  
百面相したら写楽の絵になった

先月号のお気に入り  
3はいや4が好きだと言つ娘  
3は「三〇〇」など親しみが有り、4は死を連想し忌み嫌われるのですが、若者にとっては「四つ葉のクローバー」の幸運数として捉えてみたいですね。  
葉閑女

### 達毘古【たつひこ・富山県高岡市】

イエスからまたお前かとドアチエーン  
妻のベットまで近いのか遠いのか  
裏の海に僕に恋する鰯が待つ  
海を見るひとの背後で海も見  
公武宗合体ロボの影の草

先月号のお気に入り  
父の日の父は砂漠の穴の中  
この国と父は穴から出られるのか？  
笹田隆志

## 田中薫

【たなかかおる・青森県弘前市】

山と山とりあえず山現在地  
緑みどりに覆われてそれでいい  
エメラルドの複眼で見つめないで  
君のため山へ帰るなオニヤンマ  
秘密基地きつとあるよトンボトンボ

先月号の  
お気に入り

## 旅男

【たびお・青森県五所川原市】

良い音しよるじやがいもはオラの音  
脳とNoとノート 頭腐の東風豆腐  
家庭には爆発物がワンサカわんさか  
混ぜたらあかん爆発しまつせ「イエス」  
会見もぬらつとしちよる右端かな

先月号の  
お気に入り

酔っぱらつてくれる下駄の烙印 岩根彰子  
勝手なら、酔っ払てる男のイケスと読みました、「くわ」と「下駄の烙印」に撃たれた。湯屋の前屋台で待つむきたま、着の長湯で僕は酔っぱらう、こたを感じ。

## 辻井洋子

【つじいようこ・青森県青森市】

感謝するだから回って扇風機  
鏡見るアップデートはもうしない  
ソーメンののど越し君の褒め言葉  
一品の焼き茄子霧が晴れていく  
美しく風鈴鳴らす風になる

先月号の  
お気に入り

だからどうしたペンペン草の骨密度 坂本清乃  
骨密度下がりました。私も開き直っちゃお。

## 土田雅子

【つちたまさこ・青森県青森市】

難儀な道を知らず選んでしまう姑  
我慢ならいくらでも出来るが口癖  
生きている人優先いつも言ってたね  
突発性難聴 姑は教えてくれた  
彼方から頑張りなさいの姑の声

先月号の  
お気に入り

祭去りゼリーの街の表面温度 四ツ屋いずみ  
不思議な世界観。映像が浮かんで来ました。

## 奈良一艘

【ならいつそう・青森県弘前市】

なあ君も洗濯バサミの身になれよ  
おっぱいがわんざわんざと鳴く葉月  
うむ、それはさておき枝豆の碧  
ワタクシを煮沸するのはやめましょう  
生命の短さ、夜の長さと脂肪肝

先月号の  
お気に入り

3Dプリンターのハートだね君 四ツ屋いずみ  
いやはや、鋭くハレておりましたか…てへへ

## 鳴海賢治

【なるみけんじ・青森県つがる市】

玉ねぎを刻む出血目に浮かぶ  
雨は重たいうわぎは軽いのです  
お金はないがファイトマンである  
どきどきはするがくよくよまずしない  
何も無いところに夕陽沈みゆく

先月号の  
お気に入り

一日分の野菜を摂りに…生きる 須藤しのぶ  
生きる、とくれば弱いです。

## ひとり静

【ひとりしずか・奈良県大和郡山田市】

青空を剥がしてみればさびしがり  
経験が足りない少しずづれる  
百日紅息切れをしている心  
八月の鯨今は希望があるので  
果てしない雨だと思ふ電話切る

先月号の  
お気に入り

通り雨でしたといえる後遺症 まみどり  
強くなれましたね。

## ひらく

【ひらく・青森県蓬田村】

ハリーポッターの呪文唱えるテスト前  
パップパップ杖が行く目醒めねば  
みょうがの花が開いたスタートだ  
ハーケン背負うムーミン谷の水飲みに  
握手した手から生れた種である

先月号の  
お気に入り

まきこ【まきこ・青森県青森市】

一週間違う音出し生きてみる  
さよならを忘れてしまった喉仏  
くず入れを覗くとあの日のプロポーズ  
青空を消してピエロの面はずす  
たった今背骨を抜けた霊柩車

先月号のお気に入り  
朝毎に替わる私という基準  
その都度変わるかもしれないワ・タ・シ(笑)  
吉田州花

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

不完全燃焼でした夏でした  
後悔はいかほどですか蝉時雨  
垂木にもなれず蒟蒻にもなれず  
淡々と流れ作業のような日々  
せめてもの救いが締め切りだなんて

先月号のお気に入り  
ブロッコリーもれなく買ってしまっ病  
はい、他にアスパラも入るのですが。  
吉田州花

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

×切を日延べするよと言うサプリ  
甲子園・枝豆プラスねぶた 夏  
答え無い事がこの世に多すぎる  
足首から下フェイクです悪しからず  
私だって好きで独りじゃないってば

先月号のお気に入り  
切った髪から哀愁が漂ってる  
私の場合切った髪に加えて抜け毛もです。  
田中薫

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

祭り復活鬱憤晴らすはずだった  
夏祭り終わって雨の嫌がらせ  
恵みの雨が次々牙をむいた夏  
異常気象日本全国亜熱帯  
戦争と異常気象とパンデミック

先月号のお気に入り  
星になるならば北極星近く  
賛成です。方向音痴の私でも迷子にならずにすみそっだ  
から・・・  
柳谷たかお

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

速達で届ける赤い曲がり角  
循環器系のプライドひとつある  
想定外が気になる 私以後のこと  
原点回帰素うどんが美味すぎる  
白と黒交互に僕が減っていく

先月号のお気に入り  
朝毎に替わる私という基準  
生きている証し、毎朝 新鮮な自分でいたいものです。  
吉田州花

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

塩だれをやめてシロップ漬けの空  
老人のツアーに少年がひとり  
サイバー空間にアメ横の演歌  
お笑いばかりジャッカルの夏休み  
決着は水鉄砲で決めなさい

先月号のお気に入り  
どちらかと言うと曇天似合っ肩  
普通の人ってそうなんじゃないかな。ピーカンが似合っ  
人ならスターになれるもの。  
四ツ屋いずみ

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

辨明はしました今夜はぐつすり  
満月を落さないように抱いている  
弱音はくだんだん夢の軋む音  
イライラとみじん切りして指を切る  
水ぬるむ明日の貌を描きながら

先月号のお気に入り  
春借りて旅に出ようとふくらはぎ  
季節で春が一番好きです。春になるとやりたい事が色々  
でて来てまだまだ頑張る気持ちになります  
坂本清乃

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

雨雲で残るか虹になっちゃうか  
わだかまりにオリブオイルひとまわし  
ゆうやけをくすぐる向日葵の両手  
脱脂粉乳肝油ドロップ長い坂  
間違っ捨てちゃったかもしれぬ 夏

先月号のお気に入り  
笛吹きも跳人もマスクをつけるとか 木村美映  
口、鼻を手拭いで覆って花笠を被るのが跳人の正装。感  
染症予防？正体隠し？

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

紙飛行機夢の続きをはじめよう  
空もよう多数決にて今日は秋  
皇帝ダリア友達は青い青い空  
喜怒哀楽時間をかけてうすめられ  
逢えぬままゆつくり発酵する秘密

先月号のお気に入り  
間違っここにいるのかもしれぬ ひとり静  
思い当たるふしがあります。

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

遠足も祭りも前夜眠れない  
深呼吸より青くなる空と海  
初めての海が瞳に住んでいる  
散骨は海へ七つの海泳ぐ  
後戻りできないオホーツクの海

先月号のお気に入り

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

よーいドン やつと出た旅雨ばかり  
十時だよグズグズしてるとお昼だよ  
禍を撒いて反省なきブログ  
読書より散歩しようよ柿日和  
霧時雨サ行変格活用だ

先月号のお気に入り  
レシーブの目付を一個巻き戻す  
それで、何をすすつもあり？  
須藤しんのすけ

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

鳥になる一步ゼブラゾーンの途中  
巢ごもりの鳥の呪文は儼だらけ  
だまされてみよう月見草の群落  
まだ踊る女で歳を数えない  
ゆくりなく膝までの水漕ぐ暮らし

先月号のお気に入り  
電池切れ豆大福が効くらしい  
ショートケーキが効く人もいるらしい  
熊谷冬鼓

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

意のままに動けないんだ支えあう  
三年も勉強ばかりして荒む  
ぼけぼけとのどかな気分で…失敗…  
さざ波のように飛び立つ鳩と君  
情熱の未使用重すぎる ぐらり

先月号のお気に入り  
杓寿くるやりたいことがたんとある 村上てる  
やりたいことがあるってすてきですね。私もそうであり  
たい…

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

「警報」の行方を追えば真夜の大雨  
打ち上げ花火誰かの泣いている闇へ  
生きるとはかくも忙し胡瓜漬け  
夏の庭アップルミントへの防御  
墓参するあの世の風が火を消して

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

湾曲の底から青を斜め塗り  
目の高さまで溜まつてきた不満水  
何かこう恐い横顔雨神さま  
オプティミストの背後にいつも蝉時雨  
サンダル日焼け薄まりました夏たたむ

先月号のお気に入り  
女性から男性引くと六になる 安藤なみ  
引いてもまだ六も残ってるんですね。安心しました！

むむし【むさし・青森県蓬田村】

ギラギラと油膜が浮いた覗き窓  
推定無罪 オイルフェンスが回される  
鼻のアブラは特殊詐欺ですちちんぷい  
ナポレオンの鼻穴に棲む蚊食鳥  
俺の吐く空気を俺が吸っている

先月号のお気に入り

# 深艘心理

女性から男性引くと六になる 安藤なみ

(会員雑詠集 無人駅8月号より)

8月号「無人駅」を読んで、先ずあれれ？と引っかかったのが掲句。

単に総人口に対しての性比率が、男性4割に対して女性は6割だと述べているのかと思いがググってみた。結果、世界の総人口79億5千4百万人に対して女性より男性の人口の方が約6千万人多いだけなのだという。開発途上国と先進国では多少の差はあるものの、ま、大体1:1の割合なので掲句については当てはまらないようだ。

では掲句は何を言いたくてこういう比率にしたのだろうか？

昨今叫ばれている性差別を無くし男性と女性は同等であるべきというジェンダーレスの時代においては5:5が当たり前になりつつある。作者もそれには全く異論はなく、はなっから5:5なのだろう。だが、掲句の妙は「女性から

男性引くと」の「引くと」にあるのだ。

この「引くと」とは、男女一対、例えば夫婦の場合、夫が病氣や事故で亡くなったり、或いは凶らずも離婚等で男性側が欠けた場合を指すのではないだろうか。その場合妻には子供が残る。離婚の場合も例外はあろうが、大抵は親権が妻に渡ることが多いと聞く。という事で5+1=6となり、その差の1こそは正に宝物である子のことには他ならない。作者は男性よりも女性の方が価値があり偉いと言っているのではなく、腹を痛めて子を産んだ女性の優位性は否めない。よって女性は強しと述べているのだろう。

ハンカクサイ(津軽弁でおバカ又はアホみたいの意)深艘心理的深読みによればそうなるのだ。

うむ。これで一件落着なのだ。いいのだ。

## 喧嘩売って来た

9月3日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(7名)

むさし・葉閑女・熊谷冬鼓・須藤しんのすけ・守田啓子・奈良一艘・Sin

▼投句者(23名)

吉松澄子・旅男・達昆虫・安藤なみ・柳本恵子・宮井いずみ・村上あつこ・芝岡かんえもん・米山明日歌・石橋芳山・吉田吹喜・城後朱美・鳴海賢治・三浦蒼鬼・土田雅子・郷田みや・きさらぎ彼句吾・まきこ・まみどり・田中薫・笹田隆志・岩根彰子・坂本清乃

おかじょうき川柳社

9月例会

席題『虫』

青森県蓬田村 むさし 選

【佳作】

国葬はやめよやめよと虫時雨  
弱虫を演じたこともネギの白  
フンコロガシのたてがみ少し欠けている  
ナイフ買う 触覚を淫らに揺らし  
ハエ叩きを構えてロシア側に一步  
プーチンの代りに叩くカマドウマ

葉 閑女  
熊谷冬鼓  
奈良一艘  
守田啓子  
S i n  
葉 閑女

【特選】

榎山に蟬の抜け殻だけ一つ

奈良一艘

『榎山』は賑わっていないのか…。

席題『虫』

青森県青森市 葉 閑女 選

【佳作】

弱虫を演じたこともネギの白  
女郎蜘蛛VSカバ当然カバの負け  
ナイフ買う 触覚を淫らに揺らし  
泣くのはやめる昆虫食が始まるぞ  
蟻の巣も均して線状降水帯

熊谷冬鼓  
奈良一艘  
守田啓子  
むさし  
熊谷冬鼓

「合同結婚式」開催 アメリカシロヒトリ

奈良一艘

【特選】

榎山に蟬の抜け殻だけ一つ

奈良一艘

『姥捨と蟬の抜け殻に共感

宿題『よろよろ』

青森県青森市 熊谷冬鼓 選

【佳作】

疲れましたメトロノームの針の先  
賛成ばかりしてよろめいている  
よろよろの影に気合いを入れられる  
仏壇の奥でよろよろしてしまう  
よろめいたプラグ抜けてた夏終わる  
深爪の明日がよろよろ掴めない  
七転びよろよろ起きて仰ぐ月  
鍵穴へ右右左あと三歩  
非・不・未・無を背負いよろよろマイペース  
ただならぬ手紙 酔っているような  
苦笑いするつきやないな甕瓶の把手  
寝転ぶと鉛筆削りも横になる  
生き様が絶滅危惧種的好めき  
式服の肩の力は抜いておく

石橋芳山  
鳴海賢治  
むさし  
吉松澄子  
守田啓子  
米山明日歌  
まきこ  
郷田みや  
葉 閑女  
吉松澄子  
岩根彰子  
達 昆古  
奈良一艘  
須藤しんのすけ

よろよろの爺さんがもつ仕込み杖  
水平線がよろよろ海へ帰る夜  
ワタクシと半音ズレる股関節  
誘惑にまけてしまった猫じゃらし  
凶太くてよろよろでへたへたなのよ  
第七波までは泳いできたけれど

芝岡かんえもん  
守田啓子  
きさらぎ彼句吾  
まみどり  
田 中 薫  
柳本恵子

【五客】

早口言葉からよろよろと青い舌  
よろよろと終活の穴入り込む  
雨音に濡れたわたしがゆれてるわ  
ニンゲンになるには嘘をつき過ぎた  
よろよろと狼煙が上がるカルテから

宮井いずみ  
まきこ  
田 中 薫  
奈良一艘  
きさらぎ彼句吾

【人位】

黄色い線のどつちが内側なのだろう

S i n

【地位】

ヨタへ口になるまでちゃんと狂わなきゃ

きさらぎ彼句吾

【天位】

母の扇風機止まりそうであるぞ、

田 中 薫

『母が扇風機なのか扇風機が母か』「まる  
で、」の表記が切ない。

# 宿題『余』

青森県弘前市 須藤しんのすけ 選

## 【佳作】

留守電に余計なことをしゃべり過ぎ  
 チンアナゴ妥協の余地のさぐりあい  
 つり銭を間違えたのは熱帯夜  
 余暇は余暇ゴロゴロゴロリして過ごす  
 両手からあふれてしまうモノの青  
 ごめんなさい余白だらけの読経中  
 余韻断ち切り深爪をしてしまう  
 身に余る光栄ですよ華なんて  
 余計なことほしめない石蹴りしない  
 エプロンの右ポケットにある余熱  
 余白部分埋めて人生最終章  
 余熱だけ集めて今日が夕焼ける  
 青ざめた余暇を拾ってきてあげる  
 余所見ばかりしたがる若いスポンジ

まみどり  
 宮井いずみ  
 柳本恵子  
 吉田吹喜  
 むさし  
 まみどり  
 三浦蒼鬼  
 笹田隆志  
 鳴海賢治  
 土田雅子  
 村上あつこ  
 郷田みや  
 安藤なみ  
 きさらぎ彼句吾

余ってる二重らせんを取りにきて  
 座ったし外回ったしもういいの  
 割り算の余りのようにふたり居る  
 中指が小指に聞いている余命  
 いちれんの余罪を回れ観覧車  
 余白には男を入れる月の夜

安藤なみ  
 達 毘 古  
 まきこ  
 安藤なみ  
 吉松澄子  
 米山明日歌

## 【五客】

立ち止まり禁止の端の昼の月  
 エンドロールに紛れ込んだか黒揚羽  
 日の丸の余白で踊るフラメンコ  
 まだ余力あるしパラシュートもあるし  
 長生きを持て余してる車椅子

岩根彰子  
 宮井いずみ  
 まきこ  
 吉松澄子  
 葉 閑女

## 【人位】

余白にもたつぷり汗がついている

芝岡かんえもん

## 【地位】

私と母は円周率なのだ

守田啓子

## 【天位】

よそ見しているから空が海になる

むさし

「余り物には福がある」的な説法。素敵です。

# 宿題『自由詠』

青森県弘前市 奈良一艘 選

## 【佳作】

納豆ずるずる健康寿命という呪文  
 妥協案出せずバリバリ食うレタス  
 身軽さは少し淋しい音もする  
 青春の青虫毛虫ミドリムシ  
 塩飴くらいで落とせる城じゃない  
 デラシネの列からロミオとジュリエット  
 はじまりは少し濁っていた二人  
 ほめてはちぎりちぎっては投げている  
 たつぷりと塩をふりかけ毒を呑む  
 妄想で必ずつまる七の段  
 ハートには修正液の垂れている  
 夕焼けが無敵の人の顔をする  
 真心の空の上やら臍の下  
 瘡蓋の中でわらっている女

熊谷冬鼓  
 まきこ  
 米山明日歌  
 吉田吹喜  
 宮井いずみ  
 須藤しんのすけ  
 米山明日歌  
 鳴海賢治  
 笹田隆志  
 S i n  
 芝岡かんえもん  
 旅 男  
 芝岡かんえもん

## 【五客】

スルメイカしやぶり貧乏ゆすり さあ  
 絵の中のクサリが音を立てたがる  
 日没のきれいに取れる桃の種  
 カマイタチいないね鬼灯を鳴らす  
 戦場を這うもの ほうほうほう螢

田中 薫  
 むさし  
 守田啓子  
 吉松澄子  
 笹田隆志

## 【人位】

コロナの街にコロリと一升瓶のフタ

むさし

## 【地位】

ちりちりと国葬 ぼとり線香花火

守田啓子

## 【天位】

緑青の方から喧嘩売って来た

土田雅子

「緑青年令の私としては「何とまあ」としか言えない。」

# 川柳吟行会「ぽ」

## 課題『火』

当初の思惑と違って、あまりにも長引くウクライナの戦い。ズルズルと続く長雨。都会中心に拡大すると思われていたコロナが青森でも急拡大していることにも驚いた。そして身近な柳人の感染を知らされてショック。今まで数字としての恐怖感があったが名前を知らない人達だから他人事だった。今はそうはいかない。句会のあとの飲みながら語り合う楽しみはまた格別だ。それが出来ないのはとても残念。ネット上でも句会は出来るが、顔を合せての批評は楽しい。自分の解釈と全く違う見方や感じ方を聞くのも大事だと思う。残念なことに今回も集まれなかつたが、雨の間々の暑い日に「火」と取り組んでくれた力作を楽しみたい。早く集まってワイワイ言い合える日を待ちながら、3メートル以上に伸び

夫婦か何も話さないうちに、線香花火の火の玉がポトッと落ちて後は夕闇。【州花】線香花火の静かさを思った。  
【こあき】未来の覚えてこない現在。せめて今日の幸せを。  
【冬鼓】線香花火のパチパチはじける音だけ。言葉はなくても通じる想い。

着火剤少ししけつたまま盛夏

柳本恵子

【かなえ】今年の夏の大雨の被害状況に言葉を失くした。着火剤、キャンプの予定でもあった? 「しけつた」のひらがな表記に、思うようにならない盛夏(恋?)のもどかしさがある。【朱美】気持ち落ち着かぬままな、夏が過ぎていく。【与生】宵宮で買って余った花火もしけつてますね。【いずみ】今夏東北地方はずつと雨。キャンプにも行けない。ピカイチの時事吟。

【4点】特×2  
マッチ擦る文語口語をかき混ぜて 須藤しんのすけ

【吉見恵子】「文語口語」かき混ぜて燃やしているのは、手紙や古い本だろうか。それとも誰かのセリフや言葉だろうかと想像の広がる句。【州花】何に着けるためのマッチなのだろう。文語口語が混じったりして。

た向日葵を見上げている。まず体力をつけておきましよう。(さち)

【8点】特×4  
マッチ擦る匂いも固い桃も好き 熊谷冬鼓

【啓子】意外性たっぷりな好きなものに刺激されました。私は固い桃と薪が燃える匂いが好きです。【いずみ】「マッチ擦る」で寺山修司の短歌が浮かぶが、この句では匂い。そして対のアイテムには白桃系の固い桃。参りました。【しんのすけ】ブックマッチをカッコよく点ける練習をした。固い桃は未熟イメージ。どちらも頼りない青い薔薇の香がする。【五郎】好きなものの取り合わせが絶妙。

【5点】特×1・佳×3  
手火花の誰も未来を語らずに 吉見恵子

【さち】若い男女なのか、反抗期の子と親なのか、熟年

時々狼煙を上げる台所 滋野さち

【達毘古】強い思い出があるので、特選にするしかない? 亡母が亡祖母に、妻が僕に、台所で狼煙上げましたね。亡祖母の衝撃。僕の困惑。ん?時々? 【与生】台所に狼煙を付けた意外性がいい。料理をしない男(女)は狼煙と調理の区別がつかない。

【4点】特×1・佳×2  
あれが火の鳥死刑執行の朝 月波与生

【冬鼓】くしくも秋葉原事件の加藤死刑囚の死刑が執行されたばかり。その瞬間何を思っただろう。火の鳥に作者の死刑囚への憐憫の思いを感じた。【達毘古】社会の責任は?この制度は?悩ましい朝ですね。【吉見恵子】死刑執行という朝に、不死鳥を見つけてこの世の真実を見たかのように描いている。火の鳥は蘇るが、人間の生は一度きり。究極的な時に感じるものは。

逃亡の好きな男と火を分ける 小野善江

【こあき】火を分けるがいいですね。いつまでも逃亡の好きな男を追ってはいけません。【彰子】憧れである。テレビで放映してた逃亡者と逃避行。【文音】思わず笑ってしまえる句。火を分ける難しさ、心を分ける難しさ。

思い続けるしかないだろう。

火曜日わたしも定休日 城後朱美

【彰子】題『火』から日常の大切さ、一週間の間に営業日も有り、定休日もやって来る。当り前の普遍を勝手に気付かせてくれた作品。【しんのすけ】個人的定休日と火曜日の微妙感が素敵です。【かなえ】火曜日が巧み。シンプルでいながらちよつと一捻りしている。

【3点】特×1・佳×1

火加減は弱火 日常をコトコトと 吉見恵子

【善江】何気ない日常を書いて共感させられる一句。特にコロナ禍の中では日常的なことを大切にすることがベスト。【柳本恵子】コロナ後に備えて、体力、気力貯えましょう。

ワタクシが火種だったか遠花火 熊谷冬鼓

【文音】ワタクシの片仮名表示が切ない。火種と遠花火のコントラストが美妙。【五郎】発想がユニークである。

暮らしが頭に浮かび、深く頷いてしまった。

今一度火になる事を決意する 村井規子

【柳本恵子】まだまだやりたい事行きたいと、一つ一つかなえてみたいと思ってます。私も。

【2点】佳×2

話尽き線香花火だけ続く 月波与生

【啓子】そして線香花火も終わったら・・・想像を掻き立てる。【五郎】映画のワンシーンのような作り方。

【1点】佳×1

高3の夏の花火の支離滅裂 守田啓子

「改革をするぞー!」(火元にするくせに…) 達毘古

百合の香に咽る 線香花火終わる 熊谷冬鼓

火葬場のボタンが父の名を叫ぶ 城後朱美

【3点】佳×3

火を抱き続けられるか死ぬ日まで 宮井いずみ

【啓子】死ぬ日まで線香花火くらの火を抱き続けたい。【朱美】やりたいことがたくさんある、燃え尽きたい。【吉見恵子】これって大事。この火は、最後まで現役の生命力でということでないかな。何とか、情性で生き続けることのないようにしたいものだが。

タバコ吸いながら見る蝉の抜け殻 須藤しんのすけ

【いずみ】空蝉の空疎感とタバコを吸う間の無の感じの取り合わせがいい。【冬鼓】17音だが気息さを感じる調べ。抜け殻の効果大。【文音】タバコを吸う女と樹にすがる蝉の抜け殻が映画のワンシーンのように見えた。

【2点】特×1

対岸の火事はまさしく鎌倉殿 小野善江

【朱美】何人の人が殺されるのだろうか？ 戦国時代もウクライナも変わらない。人の世のかなしきことかな。

非常時のろうそく未使用の幸せ 渡邊こあき

【規子】県内の豪雨による停電やウクライナの地下での

乗り切るぞ尻に火がつく月曜日 村井規子

マッチ擦る孤独 屯をする孤独 守田啓子

誘蛾灯いさり火亡夫を恋う時刻 吉田州花

都合いい女つて舐めんじゃねえぞ 須藤しんのすけ

さよならのトリコロールになる炎 笹田かなえ

今はただ祈ろう柚子ジャム煮えるまで 柳本恵子

火消し壺出たがっている転居先 岩根彰子

真っ直ぐにコロナ退散打ち上げ花火 吉見恵子

蝸や火だった頃の人が逝く 守田啓子

お赤飯たく日もウクライナのニュース 吉田州花

# 十和田たてがみ川柳会八月句会

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・斉藤蛙井・佐藤まさあき・瀧尻善英・福田芳記・村上昌子・高田幸柳  
 ○投句者 磯島雅男・城後朱美・中村英三

## ■席題 『神話』 斉藤 蛙井 選

【平抜き】  
 ガリレオが神話を崩す地動説 佐藤まさあき  
 未だ生きる気力欲しくて読む神話 木村奈生美  
 良縁を神話の神に願う旅 福田 芳記  
 神話から貰う安らぎ持ち帰る 木村奈生美  
 神話聞く右脳の酸素補給する 木村奈生美  
 原発へ安全神話などはない 瀧尻 善英  
 神々に今の時代を問うてみる 高田 幸柳  
 げんかつぐ不敗の神話崩れたり 福田 芳記  
 【秀逸】  
 満天の星が語っている神話 瀧尻 善英

## ■宿題 『尻拭い』 高田 幸柳 選

【平抜き】  
 知らぬ間に人にさせてる尻拭い 村上 昌子  
 原発の最終処分だけがする 久保あざみ  
 子離れが出来ず息子の尻拭い 佐藤まさあき  
 強行な国葬民に尻拭い 磯島 雅男  
 子の悪に尻拭いする過保護親 木村奈生美  
 尻拭いなのに救いの手が伸びる 福田 芳記  
 子に残す国債重い尻拭い 磯島 雅男  
 へべれけの夫の後始末は慣れ 村上 昌子  
 尻拭いいえいただのボランテア 城後 朱美  
 保証人なつて世間の風を知る 佐藤まさあき  
 子が喧嘩するたび詫びてまた詫びる 瀧尻 善英  
 尻拭い金で解決するならば 城後 朱美  
 【秀逸】  
 学校の遅れを塾が補充する 瀧尻 善英  
 大臣の汚れを全て秘書が拭き 村上 昌子  
 【特選】  
 年金で子の借金をチャラにする 瀧尻 善英

【特選】  
 駆け落ちの祖母は私の神話です 村上 昌子  
 カメが居て大人になったウサギさん 村上 昌子

## ■席題 『神話』 瀧尻 善英 選

【平抜き】  
 げんかつぐ不敗の神話崩れたり 福田 芳記  
 神話聞く右脳の酸素補給する 木村奈生美  
 ガリレオが神話を崩す地動説 佐藤まさあき  
 カメが居て大人になったウサギさん 村上 昌子  
 高千穂で神話の世界導かれ 佐藤まさあき  
 もう二度と神国なんて削除キー 斉藤 蛙井  
 カツパ沼落とす涙と教訓と 村上 昌子  
 神々のサミット開催神無月 佐藤まさあき  
 【秀逸】  
 良縁を神話の神に願う旅 福田 芳記  
 神々に今の時代を問うてみる 高田 幸柳  
 【特選】  
 神国不敗重いコートをやっと脱ぐ 斉藤 蛙井

## ■宿題 『集合』 木村奈生美 選

【平抜き】  
 囁きが集い条例動き出す 瀧尻 善英  
 集合の場所ききちがい裏表 中村 英三  
 混むトイレ集合場所に戻れない 城後 朱美  
 災害に明日は我が身のボランテア 高田 幸柳  
 引率者一人戻らず気もめる 福田 芳記  
 ご先祖が順に並んで手招きを 高田 幸柳  
 どっさりと盛って客呼ぶ直売所 瀧尻 善英  
 山の雨徐々に湧き出て母の川 福田 芳記  
 母さんのタクトの前にみな集い 瀧尻 善英  
 集合に遅れる人は決まってる 佐藤まさあき  
 集合に時間忘れた椅子さびし 斉藤 蛙井  
 集まって平和を願う投票日 村上 昌子  
 【秀逸】  
 母親の葬儀で家族集合す 磯島 雅男  
 家族みな集合写真風の中 磯島 雅男  
 【特選】  
 女子会に合わせて家事を手抜きする 城後 朱美

□ 2022.11.23 尾張旭川柳会 創立 35 周年記念川柳大会

～大会のスムーズな進捗を図るためすべて事前投句とします～【課題と選者】(各題2句)共選『起』鈴木順子(豊橋番傘川柳会)・北原おさ虫(フェニックス川柳会) / 『慣れる』堀内重紀(名古屋番傘川柳会)・猫田千恵子(川柳きぬうらクラブ) / 『鈍い』原雄一郎(名古屋川柳社)・山下吉宣(岡崎川柳研究社) / 『ときめく』やまぐち珠美(海老名川柳天馬)・荒川八洲雄(中日川柳会) / 『自由吟』浅見和彦(尾張旭川柳会) 謝選【投句締切】10月31日(月)(当日消印有効)【投句用紙】所定の用紙(11月23日の披講・表彰式の出欠を明記して下さい)【投句料】¥1,000円(切手不可)【投句先】〒489-0031 瀬戸市五位塚町 11-329 青砥和子宛【発表】「川柳あさひ」12月号に掲載(12月初旬にお届け予定)※「川柳あさひ」12月号(創立35周年記念川柳大会号)と「35周年記念合同句集」を参加者に同送します。【披講・表彰式の日時】(マスク着用、アルコール消毒、検温等の感染対策の徹底をお願いいたします)令和4年11月23日(水)13時15分～16時【会場】尾張旭市文化会館「あさひのホール」(293席)【表彰】尾張旭市長賞、愛知川柳作家協会会長賞、中日新聞社賞、他【問い合わせ先】水野奈江子：電話 FAX.0561(54)5960・090(4855)4049 青砥和子：メールアドレス aoto11@gctv.ne.jp ※連絡があれば所定用紙を喜んでお送りいたします。【主催】尾張旭川柳会【後援】愛知川柳作家協会・中日新聞社

□ 2022.12.11 第6回 水の都まつえ川柳大会

【日時】令和4年12月11日(日)【場所】松江テレサ(JR松江駅前)松江市朝日町478-18 Tel(0852)31-5540【参加の方】①会場受付11:30～・出句締切13:00/②開場13:30/トークショー14:00～15:00/披講15:15～17:00会場は4階①受付・出句…研修室1②大会会場…大会議室(別会場になりますのでご注意ください)(第一部)60分トークショー～新家完司さんを切り刻む～(第二部)兼題『背』門脇かずお / 『臆』真鳥久美子 / 『脳』平井美智子 / 『悪』新家完司 / 『情』樋口由紀子・事前投句(大会参加者のみ)『自由吟』石橋芳山(ご出席の方は専用はがき利用)(事前投句締切)令和4年11月10日(木)必着 / 参加料2,000円【投句の方】(投句締切り)令和4年11月10日(木)(当日消印有効) / 参加料1,000円 / 1口(切手不可・小為替等で)【投句用紙】所定用紙(コピー・便せん等可)に住所・氏名・等記入の上下記へ【投句及び問合せ】〒690-0001 鳥根県松江市東朝日町206-7 石橋芳山迄(Tel 090-2003-5846)

◆十和田たてがみ川柳会10月例会案内◆

【時】10月15日(土)午前10時から【所】十和田労働福祉会館【宿題】(各題三句詠)『静寂』佐藤まさあき選 / 『せっかち』村上昌子選【互選】(二句詠)『セーフ』当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入)【席題】一題(三句詠・共選) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸柳宛

- 宿題 『しがみつく』 互選
- ①カネの木を抱いた議員に散る政務 村上 昌子
  - ①何時だってしがみついている母の膝 木村奈生美
  - ①DVの父親止めるモミジの手 瀧尻 善英
  - ①聞き飽きた自慢話を手土産に 高田 幸柳
  - ②劣化議員議席離さず雲隠れ 佐藤まさあき
  - ②雨樋に朝顔のツルしがみつつき 中村 英三
  - ②票を読む統一教へしがみつく 福田 芳記
  - ③幸せにしがみつけない青い鳥 斉藤 蛙井
  - ③愛犬の命遠のき抱き締める 久保あざみ

「チャレンジ川柳！むさし流！」のブログはこちらから

### ■会費拝受【8月受付分】

豊澤かな江（青森市）・河野潤々（北海道）

### ■おかげょうき川柳社会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかげょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

### おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

### 終着駅 Sin

◆9月30日で第27回杉野十佐一賞の締め切りとなった。これまでも、インターネットからの投句をおかげょうき川柳社のウェブサイトでは受け付けてはいたが、今回から、更にスマホからの投句をしやすいするために、投句フォームを変更させていただいた。それによって、投句がうまく出来ない人も数名いたが、皆さん、それなりに対応してくれたと感じている。デジタル化に関しては、さまざま批判を受けることもある。応募する側には、多少、ご苦労をかけることになるが、これによって、書き間違い、写し間違いなどのヒューマンエラーに対する労力もだいぶなくなり、事務局の負担も大きく減っているということもご理解いただきたい◆この場で何度も書いたが、実際、事務局内のデジタル化はかなり昔から取り組んでいる。そのおかげで、コロナ禍の中でも、句会以外はそれほど困ることはなかったように思うし、その時間的余力のおかげでステイホーム句会として、会員以

外でも投句できるような企画を開催出来たと思う。あれをアナログでやろうとしたら、多分、実施すら出来なかったと思う◆今後そのような投句は全国各地で増えてくると思う。今はスマホもそんなに高くない時代になったし、今回、出来なかった人も周りに聞くなどして、ぜひ、チャレンジしてみたい◆話は変わって、両親が高齢なので、私も気を付けていたが、私より先に両親二人がコロナに感染した（汗）二人共70歳を超えているが、幸い、母親の症状は風邪より軽い症状だったと言うし、父にいたっては、咳もなく微熱程度で済んだ。ワクチンのおかげなのか、ウイルス量が少なく感染したのか、はたまた誤陽性なのかはわからないが、メディアに煽られ続けてきた「怖さ」みたいなものは、若干、現場では乖離があるようにも感じた。出来れば私も一日でも若いうちに感染を繰り返して、自然免疫を獲得して、マスク無しでの日常生活を過ごしたいと思っている◆Sin

## おかげょうき川柳社 作品募集案内

### □ 2022.10.12 「川柳吟行会 ぼ」10月句会

【投句締切】10月12日（第2水曜日）【題・投句数】『地』3句【合評会】10月19日（第3水曜日）アウガ5階で14:30～【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 \*それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方ならおかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。

### □ 2022.10.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句

■おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句（12月号分）【締切】10月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句（最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】12/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

### □ 2022.11.05 おかげょうき川柳社本社11月句会

【時】11月5日（土）午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】11月4日（金）15時【宿題】（各題3句詠）『りんりん』/『裏』/『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句「睡眠」1句【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/>【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com（守田啓子）■句会参加の際は新型コロナウイルス感染対策に協力願います。

### □ 2022.11.09 「川柳吟行会 ぼ」11月句会

【投句締切】11月9日（第2水曜日）【題・投句数】『光』3句【合評会】11月16日（第3水曜日）アウガ5階で14:30～【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 \*それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方ならおかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。

